

## BIKE-EXP02010 参観報告

メッセミュンヘンとドイツ二輪車共同購入組合（ZEG）の連携により昨年から開始されたドイツ自転車展「BIKE-EXP0」は、本年も7月下旬にドイツのミュンヘンで開催された。

### 【BIKE-EXP0 2010】

主催： Messe Muechen GmbH

会場： 新ミュンヘン国際見本市会場

会期： 2010年7月22日（木）～25日（日） 10:00～18:00

22, 23日；ビジネスデー、24, 25日；一般公開

使用会場： 計55,000㎡ホール（C2、C3、C40及び屋外エリア；昨年45,000㎡）

入場者数： 計25,700名（昨年25,000名）

うちビジネス5,700名、一般20,000名（昨年ビジネス5,000名、一般20,000名）

出展社数： 257社 392ブランド（昨年211社）



ホール C2



屋外エリア（キャノンデール）

### 1. 主な出展者

今回も最大の展示ブースを構えたZEGは、会員限定ブースの他に一般来場者用の自転車展示コーナーを設け、特に電動アシスト自転車と折りたたみ車の2車種に注力していた。更にオリジナルのスポーツ車「BULLS」は、別の専用ブースにおいて展示を実施した。

その他の主要出展社は、パンサー、ケトラー、ダービーサイクル（カークホフ/フォーカス）、ヘラクレス、KTM、カゼレ及びピナレロ等に今年はプジョーが加わっていた。部品・付属品ではシマノ、SRサンツアー、FSA、TranzX、ABUS、SKS及びUVEXなどが出展していた。昨年と同じようにZEGの取引企業が主体で、今回もZEGと取引の無いブランドや企業の大規模な出展は無かった。



プジョー



ケトラー

## 2. 注目が高まる電動アシスト自転車

今回は、展示ホールの場所も移動し展示面積及びホール数も増加した。出展社数は、昨年より 22%増の 257 社となった。しかし、新規出展社小間の多くは小規模であった。なお、ホール C4 内は、エクストラエナジーによる電動アシスト自転車の試乗コースや展示ブースが大半を占めており、この試乗コースは一般公開日には大変な盛況であった。また、コースには各社の試乗車とは別に周辺に数多く電動アシスト自転車が展示され、多くの一般来場者が電動アシスト自転車を実際に見て体験する姿を目の当たりにし、現在のドイツ市場での人気の高まりを再認識した。

また、完成車メーカー各ブースでも電動アシスト自転車は展示の中心となり新商品も見られた。今回、ZEG のペガサス、BULLS の電動アシスト自転車に SR サンツアーのユニット装着車もあった。電動アシスト自転車の成長著しいドイツ市場では、新商品等の最新動向については今後も注目が必要である。



ホール C4 (左 ; E-bike 試乗コース、 右 ; 展示コーナー)





TranzX



ヘラクレス



ZEGのスポーツ車 BULLSの電動アシスト自転車



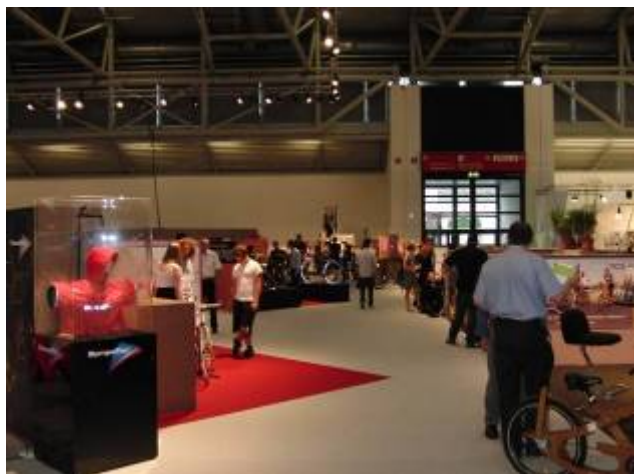
パンサーの電動アシスト自転車（左；NSU、右；Göricke）



### 3. 新たな試み

同展は、電動アシスト自転車と共に「Urban Mobility」を展示会テーマとして位置付け、今回は特にシングルギヤの自転車出展が各所で目に付いた。また、今年から「brandnew」と称し新商品表彰を開始した。そのブランド群が集まったコーナーを設け、そこでもシングルギヤの自転車を中心に個性溢れる様々な展示物が並び、通常の自転車展とは趣の異なる雰囲気

気を演出していた。しかし、シングルギヤ車は既に他展でも頻繁に見られ、また、新商品表彰自体も特に目新しいものではないが、主催者が独自の特徴を打ち出すそうとする努力の跡が見て取れた。



brandnew コーナー



シングギヤ車の展示コーナー



各小間に出展されたシングルギヤ車

#### 4. 今後の課題

本年、ドイツでは7月上旬から中旬は好天に恵まれ、多くの販売業者にとって自転車需要の高まるこの時期は、2010年上半期の天候不順を挽回する大切な商機であった。今回もビジネスデー2日目は来場者が少ない印象を拭えなかった。7月は時期が早いという意見がまだ聞かれ、会期の問題は今後も議論的となる可能性もある。主催者公表によるとビジネス客は昨年より700名増となり堅実に増加したとも言えるが、その数は僅かであり、いかにZEG関係者以外のビジネス客を集めるかが引き続き課題となっている。

同展は来年もまた、2011年7月21日～24日の間、同地にて開催予定である。

以上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

